e ひと・e はなし　自己紹介と見通し・抱負

札幌東支部
谷口　卓弥
Takuya Taniguchi

皆さま、初めまして。令和3年4月に出身地の地元札幌で独立開業、令和4年9月にTKCに入会いたしました、谷口卓弥と申します。以前は自身100件担当を持つ所長先生にお世話になっており同様に考えていましたが、自計化ありきではない旨TKC会員の先生方にお話を伺いそのまま入会となりました。入会時の各セミナーでは所長先生はむしろ担当をあまり持たず、巡回監査は監査職員に任せていくなどのTKC成功モデルが数多くあるのだから、当初は右へ倣えでも先人に倣いTKC全国会を盛り上げてといった趣旨の貴重な経験談など拝聴させていただき、試行錯誤の中ありがたく存じます。

最近だと、これが趣味だといったものはありませんが、麻雀は学生の頃までよく遊んでいましたので、税理士会の方で4人打ちメンツ不足の際に多少参加しています。また、PCゲームはモノクロ時代からやっていました。皆さまゴルフが趣味とよく耳にしますので、機会がありましたらいずれ。むしろ趣味としての話題作りにもなるのかと。

話は変わりまして、現在のわが国のおかれる状況、少子高齢化・中国GDP増加等による相対的な経済力低下、低賃金・人材不足、公共料金等価格の大幅改定、情報の複雑化など、中小企業を取り巻く環境は刻一刻と変化しています。

一昔前2045年といわれたAIが人類の知能を超える転換点、いわゆるシンギュラリティ（技術的特異点）は、いまや20年早まり2025年ともいわれています。複合機などでデータ自動スキャンのみで会計処理が終わる、あるいはペーパーレス化が進み決済時に全て完結という時代もすぐ先の話かもしれません。

ExcelのAI化を始め、AI化が進むと日本税理士会連合会「あなたの頼れるパートナー」としての税理士の立ち位置がどうなっていくのか。昨今のDX（デジタルトランスフォーメーション）化の潮流と併せ、今後10年、20年で会計業界がたどる変遷、税理士が社会において果たすべき使命・役割、種々のわれわれ世代が考えるべき事案、過渡期であり、あるいは新時代の黎明期ともいうべきご時世論にはなりますが、その他コロナ等諸動向・趨勢（すうせい）はさておき、まずは1日も早くTKCの理念に沿う事務所となるよう鋭意努めてまいりますので、諸先生方におかれましては、ご指導の程よろしくお願いいたします。